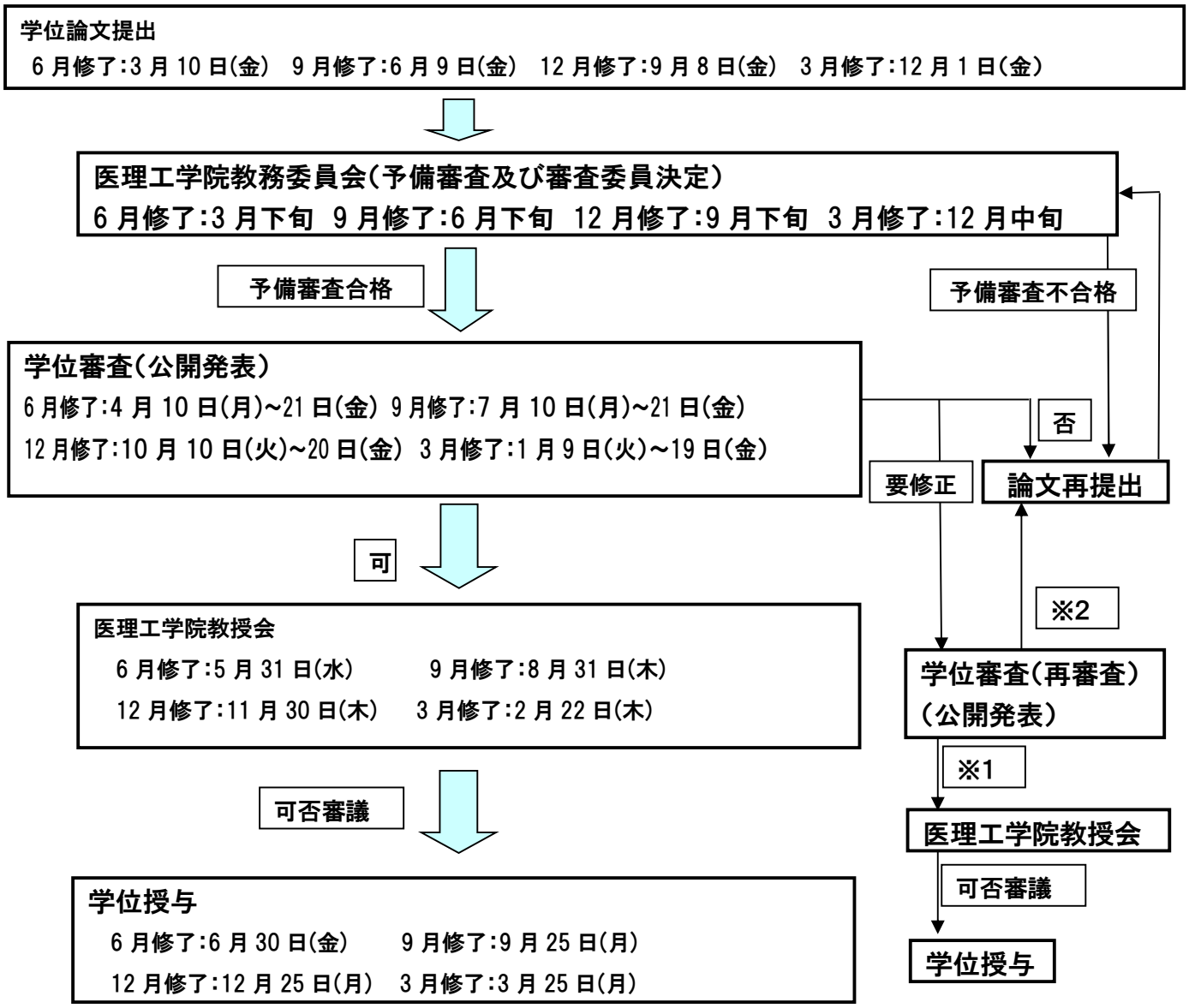
令和５年度医理工学院博士後期課程修了見込者用

学位論文提出等マニュアル

医学系事務部総務課医理工学院教務担当

博士後期課程学位論文審査フローチャート

【標準修業年限で修了を予定している場合の例示】



※１　医理工学院教務委員会で予備審査合格と判定された日から１年以内に審査会で「可」と判定された場合

※２　※１の期間内に審査会で「可」と判定されなかった場合

目　　　　次

学位論文提出手続き等‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥１

　１．学位論文提出～学位授与までの日程‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥１

　２．学位論文関係書類等‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥１

　３．申請における謝礼等の禁止について‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥３

　４．その他‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥４

医理工学院博士後期課程学位論文審査要項‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥５

医理工学院博士後期課程学位論文審査要項の運用に必要な手続き等‥‥‥‥‥８

各種様式‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥14

各様式・同記入例‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥34

学位申請論文作成の手引き‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥56

学位論文申請手続き照会・提出先

医学系事務部総務課医理工学院教務担当
TEL　直通０１１－７０６－５５２６
内線５５２６
FAX　０１１－７０６－８８０７
E-mail:d-tanto@med.hokudai.ac.jp

学 位 論 文 提 出 手 続 き 等

学位論文を提出できる者は、博士後期課程に在学する者または博士後期課程を退学後1年以内の者であって、所定の期間以上在学し、所定の単位を修得した者に限ります。

1．学位論文提出～学位授与までの日程

修了期	論文提出期限	教 務 委 員 会	学位審査 （公開発表）	最終審査 教 授 会	学位記 授与
6月修了	3月10日(金)	3月下旬	4月10日(月)～4月21日(金)	5月31日（水）	6月30日(金)
9月修了	6月9日(金)	6月下旬	7月10日(月)～7月21日(金)	8月31日(木)	9月25日(月)
12月修了	9月8日(金)	9月下旬	10月10日(火)～10月20日(金)	11月30日(木)	12月25日(月)
3月修了	12月1日(金)	12月中旬	1月9日(火)～1月19日(金)	2月22日（木）	3月25日(月)

2.学位論文関係書類等

（1） 提出先：医学系事務部総務課医理工学院教務担当窓口
（2） 論文提出期限までに提出する書類等（学位授与申請者、主任指導教員）は、必要書類の確認を事前に医理工学院教務担当から受けてください。

＊下表のうち、朱書きの書類は、主任指導教員が作成する書類を示す。

提 出 書 類 等		提出部数	要件等
学位論文		5	※1参照
基礎論文		各5	※2参照
履歴書	様式1	1	
論文目録	様式2	1	
基礎論文･参考論文目録	様式3	1	
基礎論文が掲載された、あるいは掲載されることが確約されている英文学術雑誌の概要		1	※3参照
学位論文内容の要旨	様式4	1	※4参照
学位論文内容の要旨の電子データ(Word 形式)		メール添付にて提出	
学位論文提出者の論文提出資格申請書	様式5	1	
博士論文のインターネット公表　事前チェックリスト	別紙1	1	
基礎論文の掲載予定証明書又は受理を証明する電子メール等		1	※5参照
基礎論文が掲載された、あるいは掲載されることが確約されている英文学術雑誌についてのコメント	別紙2	1	※6参照
「共著論文」学位申請自己申告書	様式6	1	※7参照
「共著論文」主論文証明書	様式7	1	
「共著論文」共著者承諾(誓約)書 ※PDF(スキャンデータ)を印刷したものでも可	様式8	1	
学位論文審査の一部を非公開とすべき詳細の理由を記載した書類		1	※8参照
博士論文全文のインターネット公表可能日の連絡届	様式9	1	※9参照
博士論文全文のインターネット公表保留承認申請書	様式 10	1	
基礎論文の掲載誌が Clarivate Analytics 社 Journal Citation Reports インパクトファクターが附与されている英文学術雑誌であることを証明するもの		1	※10 参照
参考論文		1	※11 参照

※１

① 「１．学位論文提出～学位授与までの日程」（ｐ１）の論文提出期限までにレールホルダーもしくはクリップファイル等による簡易製本で**５編**提出すること。

② 最終的に修正した論文を、下記提出期限までに、以下の点に注意し医理工学院教務担当へ**電子媒体にて提出すること**。なお、詳細については、「学位論文審査要項」第９条（ｐ５）および「学位論文審査要項の運用に必要な手続き等」（４　インターネットによる公表の手続き）（p12）を参照。

修了期	６月修了	９月修了	１２月修了	３月修了
提出期限	5月１５日（月）	8月１４日（月）	１１月１３日（月）	2月１３日（火）

・ ファイルはPDF形式とし、パスワードによる保護は設定しないこと

・ ファイル名は「学位授与申請者名.pdf」とすること。

※ 学位授与申請者名はローマ字表記とする。

※ ファイル名は半角英数字で表記し、スペースを含めないこと。また、姓名をアンダースコアで区切り、それぞれ先頭の文字を大文字とすること。

【例】Taro_Iriko.pdf

・ 紙媒体をスキャンするのではなく、Acrobat や JUST PDF 等のソフトを使用してWord等から直接変換し、テキスト情報が保持されたファイルとすること。

・ 提出の際は、メール添付（d-tanto@med.hokudai.ac.jp）、又はCD-R等に記録して提出すること。

③ 学術雑誌に掲載された論文そのものではなく、当該研究の意義・方法論・結果・考察等を詳細に記述した学位申請論文であること。詳細については、「学位申請論文作成の手引き（p56～）」を参照。

※２ 短縮修了申請の場合、次の要件を満たすこと。

・基礎論文２編以上がクラリベイト・アナリティクス（Clarivate Analytics)社 Journal Citation Reports のインパクトファクターが附与されている英文学術雑誌に第一著者として掲載された、あるいは掲載されることが確約されている研究論文であり、学位申請論文の内容を含むものであること。

※３ ウェブサイトからの印刷可。

※４ 学位授与日以降に、本学の機関リポジトリ「HUSCAP」（http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/index.jsp）に掲載するので、**電子媒体でも提出すること**。

※５ 基礎論文がレフリー制度のある英文学術雑誌に掲載されることが確約されている場合に提出すること。

なお、学位論文提出期限までに基礎論文の掲載が確約されていない場合には、別途事前に医理工学院教務担当までご相談ください。

※６ 掲載学術雑誌が、**Impact Factor のない雑誌**である場合に提出すること。

※７ 基礎論文の著者が学位授与申請者（第一著者）以外に複数いる場合に提出すること。様式６～８の提出を不要とする者は、基礎論文が単著論文（著者が１人）の場合のみであるので注意すること。

※８ 学位論文審査の一部を非公開の形式で行うことを希望する場合に提出すること。

※９

① 学位論文のインターネット公表をするにあたり、事前に基礎論文が掲載された、あるいは掲載されることが確約されている英文学術雑誌と権利関係の確認等を行うこと。その結果、**学位授与日以降直ちに学位論文を公表することができない場合**は、公表可能日にあわせて、以下の**いずれか一方の様式を提出すること**。なお、詳細については、「学位論文審査要項の運用に必要な手続き等」（４　インターネットによる公表

の手続き）（p12）を参照。

・　様式９：公表可能日が学位授与日より１年以内の場合

・　様式 10：公表可能日が学位授与日より１年を超える又は未定の場合

※　学位授与日以降、**直ちに公表可能な場合**は、**いずれの様式も提出不要**。

②　英文学術雑誌との権利関係の確認等は、主任指導教員とよく確認のうえ、**学位授与申請者自身が責任をもって行うもの**とし、原則、**学位論文関係書類等の提出期限までに済ませておくこと**。なお、このことについての相談窓口として、附属図書館において「博士論文のインターネット公表」相談ホットラインを開設しているので、適宜利用するとよい。

※「博士論文のインターネット公表」相談ホットライン
相談日時：平日 9:00～17:00　E-mail：huscap@lib.hokudai.ac.jp
電話：011-706-2524/4741　又は 2524･4741（内線）

③　様式 10 を提出する者は、インターネット公表することができない事由の**根拠となる資料**を必ず添付すること。

④　様式 10 を提出した者は、学位授与日以降直ちに学位論文をインターネット公表することができない事由が「やむを得ない事由」に該当するかを、教務委員会において判断される。そこで事由が認められた場合、学位論文が公表できるようになるまで、**「学位論文の要約」**の公表に代えることができる。その場合、「学位論文の要約」は以下のとおり作成し、電子データを学位授与日前までに提出すること。

・　表紙を「学位申請論文作成の手引き」p57 A)を参考に作成し、表題は「学位論文（要約）」に変更する。

・　本文は、日本語の場合は 3,000 字以上、英語の場合は 1,200 語以上とし、学位論文の構成や全体の内容がわかる要約とすること。なお、**「学位論文内容の要旨（様式４）」をそのまま「学位論文の要約」とすることは不可**。

※10　次のウェブサイトを参照のうえ、基礎論文に Impact Factor が附与されている場合は、掲載されているページを印刷し、提出すること。（p63～p65 に詳細記述あり）

https://jcr.clarivate.com/JCRLandingPageAction.action

※　Impact Factor が附与されていない場合は提出不要→※６へ

※11　基礎論文以外の研究論文で学位審査の参考となる論文（学位授与申請者が著者となっている論文に限る）がある場合に提出すること。

（３）審査委員決定後に、主査が提出する書類（別途医理工学院教務担当から通知）

○　審査委員会実施日程等通知書（様式 13）

（４）審査委員会終了後、主査が提出する書類（別途医理工学院教務担当から通知）

①　学位論文審査結果報告書（様式 14-2）

②　学位論文審査の要旨（様式 15）　※　学位授与日以降に、様式 15 については本学の機関リポジトリ「HUSCAP」に掲載するので、**電子媒体でも提出してください**。

３．申請における謝礼等の禁止について

学位授与の申請にあたり、学位論文の**審査に謝礼等は一切必要ありません**。

なお、謝礼等の強要などがあった場合、北海道大学ハラスメント相談室に相談願います。

また、学位論文の審査に関して、不正行為、謝礼等の授受が判明した場合、授与した学位記を取り消す場合がありますのでご留意願います。

※北海道大学ハラスメント相談室
受付日時：平日 10:00～17:00　E-mail：soudan@general.hokudai.ac.jp
電話：011-706-2096/2862　又は 2096・2862（内線）

４．その他

各種様式については、次のアドレスの「各種様式」からダウンロード願います。

https://www.med.hokudai.ac.jp/bme/

【参考】北海道大学医理工学院ホームページ（https://www.med.hokudai.ac.jp/bme/）
ホーム＞＞各種様式＞＞学位論文関係＞＞博士後期課程

※掲載場所については、今後変更の可能性があります。
上記掲載場所に様式が見つけられない場合は下記へ問い合わせ願います。

医学系事務部総務課医理工学院教務担当
電話：011-706-5526　又は 5526（内線）
E-mail：d-tanto@med.hokudai.ac.jp

なお、各種様式の記入例については、本マニュアル「各様式・同記入例（p34-55）」として掲載しましたので、参照のうえ作成してください。

医理工学院博士後期課程学位論文審査要項

平成 29 年３月 24 日制定

（趣旨）

第１条　北海道大学大学院医理工学院（以下「本学院」という。）の博士後期課程における学位論文の審査及び試験（以下「学位論文審査」という。）については、北海道大学学位規程（昭和 33 年海大達第 12 号）、北海道大学学位規程の運用に関する細則（平成４年３月 18 日学長裁定）及び北海道大学大学院医理工学院規程（平成 29 年海大達第 137 号）（以下「本学院規程」という。）に定めるもののほか、この要項の定めるところによる。

（学位論文の要件）

第２条　学位論文の形式は、学術雑誌に掲載された論文そのものではなく、当該研究の意義・方法・結果・考察等を詳細に記述した学位申請論文（Thesis）とする。その記述方法は、和文、英文を問わない。

２　学位論文には、１編以上のレフリー制度のある英文学術雑誌に掲載された論文、掲載されることが確約されている論文であり、学位授与申請者が第一著者（Equally contributed の場合も第一著者のみ。）となっている論文（以下「基礎論文」という。）を添付しなければならない。

３　基礎論文は、学位論文の内容を含み、博士後期課程在学中に行われた研究内容を主体とした論文とする。

４　基礎論文には、原著論文、短報等を含むものとする。ただし、評論、症例報告、レビュー、意見等、独自の研究成果によらないものは除くこととする。

（学位論文の提出）

第３条　学生は、学位論文審査を受けようとするときは、前条に定める学位論文に所定の書類等を添えて学院長に提出しなければならない。

２　学位論文を提出できる者は、博士後期課程に在学する者又は博士後期課程を退学後１年以内の者であって、医理工学院規程第 12 条第１項、第２項又は第３項に規定する所定の期間以上在学（在学見込みを含む。）し、所定の単位を修得（修得見込みを含む。）し、かつ必要な研究指導を受けた者とする。

（予備審査）

第４条　学院長は、前条第１項の規定により提出された学位論文の審査対象とすることの可否及び第５条第９項に定める学位論文審査の一部を非公開の形式で行うことの可否に係る審査（以下「予備審査」という。）について本学院教務委員会（以下「教務委員会」という。）に付託する。

２　予備審査は、第２条、前条、第５条第９項及び第 10 条に関して行う。

（審査委員及び学位論文審査）

第５条　本学院教授会（以下「教授会」という。）は、前条の規定により審査対象となった学位論文審査のため、学位論文毎に審査委員会を置く。

２　審査委員会の審査委員は、本学院の研究指導を担当する教授（客員教授及び特任教授を含む。）のうちから３名以上とする 。

３　審査等のため必要があると認めるときは、次に掲げる者を前項の審査委員の一部の者

として充てることができる。
(1) 本学院の研究指導を担当する准教授、講師、助教（客員准教授並びに特任准教授、特任講師及び特任助教を含む。）
(2) 他の研究科等の研究指導を担当する教授、准教授、講師又は助教
(3) 他の大学若しくは外国の大学の大学院又は研究所等の教員等
4　前２項の審査委員は、学位授与申請者の主任指導教員（以下「主任指導教員」という。）が学院長に推薦する。
5　前項の審査委員の推薦にあたっては、主任指導教員と異なる学問領域の教員を少なくとも１名含めるものとする。
6　学院長は、審査委員の選定を教務委員会に付託する。
7　前項の審査委員の選定にあたっては、学位の質の低下を招くことのないよう十分な配慮をもって行うものとする。
8　審査委員会は、公開の形式による学位論文審査を行う。
9　学位論文の内容に公開を猶予すべき理由があり、前項に定める学位論文審査の一部を非公開の形式により行うことを希望する学位授与申請者は、公開を猶予すべき詳細の理由を記載した書類を第３条第１項に定める学位論文の提出時に学院長に提出しなければならない。
（審査委員の主査等）
第６条　教務委員会は、前条第６項の規定により選定した審査委員のうち、本学院の研究指導を担当する教員から１名を主査として、主査以外の審査委員を副査として選定する。
2　主査は、教授又は准教授とする。
3　第１項の主査の選定にあたっては、学位論文の専門性への対応並びに学位審査の透明性、客観性及び公平性に十分な配慮をもって行うものとする。
（審査結果の報告）
第７条　審査委員会は、学位論文審査を終了したときは、所定の様式により速やかに審査結果を学院長に報告しなければならない。
（教授会の審議）
第８条　学院長は、前条の報告を受けたときは、審査結果を教授会に報告する。
2　教授会は、前項の報告に基づき課程修了の認定について審議する。
3　前項の教授会の構成員は、北海道大学大学院医理工学院組織運営内規（以下「組織運営内規」という。）第７条第１項に掲げる者とする。
4　第２項の教授会は、構成員の３分の２以上の出席がなければ、議事を開くことができない。
5　外国出張及び休職期間中の構成員は、前項に規定する定足数算定の基礎数に算入しない。
6　第２項に規定する事項に係る議事は、組織運営内規第９条第２項の規定にかかわらず、出席構成員の３分の２以上で決するものとする。
（学位論文の公表）
第９条　前条の規定により課程修了の認定を受けた者は、学位を授与された日から１年以内にその学位論文の全文をインターネットにより公表しなければならない。
2　前項の規定にかかわらず、課程修了の認定を受けた者は、やむを得ない事由があるとき

は、教務委員会の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えてその内容を要約したものをインターネットの利用により公表することができる。

３　前項の規定により学位論文の内容を要約したものを公表した者は、当該やむを得ない事由がなくなったときは、学位論文の全文をインターネットの利用により公表するものとする。

４　前３項の規定により学位論文の全文又はその内容を要約したものを公表する場合には、北海道大学審査学位論文である旨を明記するものとする。

（短縮修了）

第 10 条　医理工学院規程第 12 条第１項、第２項又は第３項の規定により在学期間を短縮して課程を修了する予定の者が学位論文に添付する基礎論文については、第２条第２項の規定にかかわらず、２編以上の Clarivate Analytics 社 Journal Citation Reports のインパクトファクターが附与されている英文学術雑誌に掲載された論文、あるいは掲載されることが確約されている論文であって、学位授与申請者が第一著者（Equally contributed の場合も第一著者のみ。）となっている論文とする。

（雑則）

第 11 条　この要項の定めるもののほか、必要な事項は教授会の議を経て学院長が定める。

附　則

この要項は、平成 29 年４月１日から実施する。

附　則

この要項は、平成 30 年 11 月 22 日から実施する。

附　則

この要項は、令和元年７月 25 日から実施する。

附　則

この要項は、令和２年４月 23 日から実施する。

附　則

この要項は、令和３年７月 15 日から実施する。

医理工学院博士後期課程学位論文審査要項の運用に必要な手続き等

平成 29 年 3 月 24 日制定

1　学位論文に添える所定の書類等（要項第３条第１項関係）

提出区分	提出書類	様式
学位授与申請者全員	履歴書	様式１
	論文目録	様式２
	基礎論文・参考論文目録	様式３
	基礎論文が掲載された、あるいは掲載されることが確約されている英文学術雑誌の概要	Word 形式
	学位論文内容の要旨	様式４※紙＋電子媒体
	学位論文提出者の論文提出資格申請書	様式５
	博士論文のインターネット公表事前チェックリスト	
基礎論文がレフリー制度のある英文学術雑誌に掲載されることが確約されている者	基礎論文の掲載予定証明書又は受理を証明する電子メール等	
基礎論文が掲載された、あるいは掲載されることが確約されている英文学術雑誌がインパクトファクターのない雑誌である者	基礎論文が掲載された、あるいは掲載されることが確約されている英文学術雑誌についてのコメント	
基礎論文が共著である者	「共著論文」学位申請自己申告書	様式６
	「共著論文」主論文証明書	様式７
	「共著論文」共著者承諾（誓約）書	様式８
学位論文審査の一部を非公開の形式により行うことを希望する者	審査の一部を非公開とすべき詳細の理由を記載した書類	
学位論文の全文を公表できないやむを得ない事由	博士論文全文のインターネット公表可能日の連絡届	様式９

がある者であって、やむを得ない事由が学位授与日から１年以内に解消することが予め判っている場合		
学位論文の全文を公表できないやむを得ない事由がある者であって、やむを得ない事由の解消時期が未定の場合	博士論文全文のインターネット公表保留承認申請書	様式 10
基礎論文が要項第 10 条第１項に定める論文である者（短縮修了者）	Clarivate Analytics 社 Journal Citation Reports のインパクトファクターが附与されている英文学術雑誌であることを証明するもの	
基礎論文以外の研究論文で学位審査の参考となる論文がある者	参考論文	

２　公開形式による学位論文審査の実施方法（要項第５条第７項及び第８項関係）

審査委員会（主査）
　審査日時、場所、発表者氏名、論文題目を決定（様式13）

↓報告

学院長
　審査日時、場所、発表者氏名、論文題目を①各分野に通知②公用掲示板に掲示

↓

（学位論文審査の一部を非公開の形式により行う者について、当該審査を実施）

↓実施

審査委員会
　公開形式による学位論文審査
　①　発表時間：質疑応答を含み一人当たり60分以内
　②　司会進行：審査委員会（主査）
　③　審査資料の配付：学位授与申請者
　④　実施時期（原則）：４月（６月学位授与予定者）、７月（９月学位授与予定者）、10月（12月学位授与予定者）及び１月（３月学位授与予定者）の末日までに実施

３　学位論文審査の手順（要項第７条第１項、第８条第１項及び第２項関係）

審査委員会

予備審査合格日から１年以内に審査（特別な事由があるときは、教授会の議を経て、１年の延長が可能）

①　審査委員が個々に判定

②　①の判定結果を基に審査委員会として「審査結果報告書（様式 14)」をまとめる

③　「学位論文審査の要旨（様式 15)」をまとめる

※　判定基準

可：学位授与が可能

要修正：学位論文の修正が必要

否：学位授与が不可能であり、学位論文の再提出が必要

↓報告

学院長

１．審査結果「可」

学位論文審査の要旨（様式 15）を教授会構成員に通知（教授会開催日の１週間前まで）

２．審査結果「要修正」

以下の手順で進めることを指導教員に通知

①学位授与申請者が学位論文を修正

②審査委員会で審査

③審査委員会で「可」の判定

④教授会で課程修了の審議

３．審査結果「否」

今後、当該学位論文の審査は行わないことを指導教員に通知

↓審議

教授会

当該学位授与申請者の課程修了の認定

４　インターネットによる公表の手続き（要項第９条第１項、第２項及び第３項関係）

基礎論文が掲載された、あるいは掲載されることが確約されている英文学術雑誌との権利関係の確認（多重公表を禁じていないか、投稿中で掲載決定前の論文を事前に公表して良いか等）

↓

課程修了の認定

↓

「学位論文全文に係る電子データ」の提出

↓

本学の機関リポジトリ「HUSCAP」に掲載

学位論文の全文を公表できないやむを得ない事由があるとき

①「やむを得ない事由」が学位授与日から１年以内に解消することが予め判っている場合	②「やむを得ない事由」の解消時期が未定の場合
「博士論文全文のインターネット公表可能日の連絡届（様式９）」の提出 （学位論文提出時） ↓ 課程修了の認定 ↓ 「学位論文全文に係る電子データ」及び「学位論文の全文に代えて公表する要約の電子データ」の提出 ↓ 学位授与 本学の機関リポジトリ「HUSCAP」に「学位論文の全文に代えて公表する要約の電子データ」を掲載 ↓ 公表可能日以後、学位論文全文を「HUSCAP」に掲載	「博士論文全文のインターネット公表保留承認申請書（様式 10）」の提出 （学位論文提出時） ↓ （教務委員会の審議） ↓ 課程修了の認定 ↓ 「学位論文の全文に代えて公表する要約の電子データ」及び「学位論文全文に係る電子データ」の提出 ↓ 学位授与 本学の機関リポジトリ「HUSCAP」に学位論文の全文に代えて公表する要約の電子データを掲載 ↓（５年以内※） 「博士論文全文のインターネット公表保留事由の解消届（様式 11）」の提出 ↓ 公表可能日以後、学位論文全文を本「HUSCAP」に掲載 ※　学位論文全文は、学位授与日から５年の

	経過をもって、自動的に公表（本学の機関リポジトリ「HUSCAP」に掲載）する扱いとする。ただし、期限到達前に本人もしくは本人に委任された本学教員が博士論文全文の「インターネット公表保留延長申請書（様式 12)」により申請し、教授会が承認することにより、1 年ごとの期限延長を可能とする。

附　則

この手続き等による運用は、平成 29 年 4 月 1 日から実施する。

附　則

この手続き等による運用は、平成 30 年 11 月 22 日から実施する。

（様式１）

履　　歴　　書

本　　籍
現 住 所

ふりがな
氏　名
西暦　　年　月　日生（　）

学　歴
西暦　　年　月　日
西暦　　年　月　日
西暦　　年　月　日
西暦　　年　月　日
西暦　　年　月　日

職　歴
自　西暦　　年　月　日
至　西暦　　年　月　日
自　西暦　　年　月　日
至　西暦　　年　月　日

研究歴
自　西暦　　年　月　日
至　西暦　　年　月　日

資　格

賞　罰

上記のとおり相違ありません。

西暦　　年　月　日

氏　名

（様式２）

論　文　目　録

学位論文題目

参考論文題目

基礎論文・参考論文目録（様式３）添付

西暦　　年　　月　　日

学位申請者

（様式３）

基礎論文・参考論文目録

１．基礎論文

冊数：

(1)　題目：
(2)　著者名：
(3)　掲載英文学術雑誌：
(4)　掲載年月：
(5)　Impact Factor：

２．参考論文

冊数：

(1)　題目：
(2)　著者名：
(3)　掲載学術雑誌：
(4)　掲載年月：

西暦　　年　　月　　日

学位申請者

（様式４）

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称　　博士（医理工学）　　氏 名

学 位 論 文 題 名

（様式５）

西暦　　年　　月　　日

医 理 工 学 院 長　殿

主任指導教員　分　野＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学位授与申請者の論文提出資格申請書

このことについて、下記学位授与申請者の論文提出資格審査を願いたく関係書類を添え申請いたします。

学位授与申請者

専 攻 名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ふり　がな
氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（ローマ字表記）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(以下提出者記入不要)

入学年月日　西暦　　年　　月　　日　　入学										
休 学 期 間	西暦	年	月	日	～	西暦	年	月	日	（　　カ月）
	西暦	年	月	日	～	西暦	年	月	日	（　　カ月）
	西暦	年	月	日	～	西暦	年	月	日	（　　カ月）
	西暦	年	月	日	～	西暦	年	月	日	（　　カ月）
	西暦	年	月	日	～	西暦	年	月	日	（　　カ月）
									通　算	【　　カ月】
通算在学期間【　　年　　カ月】						修得単位数【　　単位】				

（別紙１）

博士論文のインターネット公表　事前チェックリスト

学位規則（昭和 28 年文部省令　第九号、平成 25 年 4 月 1 日改正）の定めにより、**博士学位を授与された者は、その授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があります。**ただし、博士論文を投稿している学術ジャーナルの規定により公表が認められない場合など、やむを得ない理由がある場合はこの限りではありません。

学位論文を申請する際には、事前に本チェックリストを用いて自身の論文がインターネット公表可能であるか確認してください。

学術ジャーナルの投稿規定の確認方法や解釈等、チェック項目の中にどのようにすればいいか分からない点がある場合は、附属図書館の相談ホットライン（huscap@lib.hokudai.ac.jp ／電話 011-706-2524・011-706-4741（平日 9 時～17 時））に問い合わせてください。

チェック項目

(1)　□　他者に個人情報、著作権、肖像権その他、法令により保護される権利が帰属する図表やデータを含んでいないかどうか確認した。

（他者に権利が帰属する内容を含んでいた場合）

□　当該他者に対し、①論文に含めること、②学位授与から１年以内にインターネット公表することについて許諾を得るための手続きを行った。

※①の許諾を得られなかった場合は、指導教員に相談すること。

※②の許諾を得られなかった場合は、あわせて「公表保留承認申請書」を提出すること。

以下（2）～（5）は該当する場合に確認してください。

（学術ジャーナルにすでに掲載されている、掲載予定である、または現在投稿中の場合）

(2)　□　掲載された学術ジャーナルの投稿規定を読み、学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められているかどうか確認した。

（認められていない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

（学術ジャーナルに投稿予定である場合）

(3)　□　投稿予定の学術ジャーナルの投稿規定を読み、大学の機関リポジトリに掲載することが多重投稿規定等に抵触しないかどうか確認した。

（抵触する場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

（書籍として出版予定の場合）

(4)　□　出版社との契約上、学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められるかどうか確認した。

（認められない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

（特許・実用新案出願（既取得国以外の国への国内移転）予定の場合）

(5)　□　出願及び国内移転手続きのため、インターネット公表できない根拠及び期間を確認した。

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

（別紙２）

基礎論文の掲載学術雑誌についてのコメント

基礎論文題目：

基礎論文提出者：

基礎論文掲載雑誌：

コメント内容：

西暦　　年　　月　　日

主任指導教員　分野

氏名

（様式６）

「共著論文」学位申請自己申告書

西暦　　年　　月　　日

医 理 工 学 院 長　殿

学位授与申請者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

基礎論文題目

上記基礎論文は、下記の者との共著でありますが、私が主として研究しまとめたものであり、私が学位申請論文の基礎論文として提出することについて、指導教員の証明書及び他の共著者が本論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことなどの承諾（誓約）を添えて申告いたします。

記

氏　　名	所　　属　・　身　　分

（様式７）

「共著論文」主論文証明書

西暦　　年　　月　　日

医 理 工 学 院 長　　殿

所　　属＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

主任指導教員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

基礎論文題目

上記論文は、共著論文でありますが、下記の学位授与申請者が主として研究し、まとめたものであり、他の共著者は本論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことを確認していることを証明します。

記

学位授与申請者：所　属

氏　名

（様式８）

「共著論文」共著者承諾（誓約）書

西暦　　年　　月　　日

北海道大学大学院医理工学院長　殿

所属・身分

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

基礎論文題目

上記論文は、下記の学位授与申請者と共著したものでありますが、この度学位授与申請者が学位申請論文の基礎論文（学位申請論文の基盤をなす論文）とすることについて、これを承諾し、かつ、私はこの論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことを誓約します。

記

学位授与申請者：所　属

氏　名

（様式８：連名用）

「共著論文」共著者承諾（誓約）書

西暦　　年　　月　　日

北海道大学大学院医理工学院長　殿

所属・身分

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所属・身分

氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

基礎論文題目

上記論文は、下記の学位授与申請者と共著したものでありますが、この度学位授与申請者が学位申請論文の基礎論文（学位申請論文の基盤をなす論文）とすることについて、これを承諾し、かつ、私はこの論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことを誓約します。

記

学位授与申請者：所 属

氏 名

（様式９）

西暦　　年　　月　　日

医 理 工 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表可能日の連絡届

私が執筆した博士論文の全文は、下記公表可能日以降に、インターネットの利用により公表願います。

記

公表可能日：　西暦　　年　　月　　日 以降

届出者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得予定日 西暦　　年　　月　　日

※　本様式は、学位取得予定日から１年以内の一定期間、公表を保留する必要がある場合に提出するものです。

（様式 10）

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留承認申請書

私は、博士学位を授与された者は、その授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があることを理解しました。そのうえで、次の事由により、博士論文の全文を学位取得予定日から１年以内に公表することができませんので、博士論文の内容を要約したものを公表することを申請します。

なお、全文を公表できない事由が解消した際には、速やかにその旨を報告します。

１．博士論文全文をインターネットの利用により公表できない事由

下記事由のうち、公表保留の期限に上限が設けられている場合は、下記２で記載する公表できない事由の解消見込み日、又は公表保留上限年数（以下、公表保留期限と言う。）を経過した段階で自動的に本学リポジトリへ博士論文全文を掲載します。公表保留を延長する場合には、公表保留期限到達前の所定の日までに申請者本人又は本人から委任を受けた本学教員が公表保留延長申請書（別様式）を提出する必要があります。

（学術ジャーナルへの投稿・書籍出版による事由）

☐ 投稿済み、あるいは投稿中の学術ジャーナルの規定により、学位取得予定日から１年を超えてインターネット公表できない期間が継続するため（５年上限、ただし１年毎の延長が可能）。

ジャーナル名（　　）　掲載時期（　　）

☐ 多重公表を禁止する学術ジャーナルへの投稿を予定しているため（５年上限、ただし１年毎の延長が可能）。

ジャーナル名（　　）　掲載時期（　　）

☐ 書籍として出版する予定があるため（５年上限、ただし実際に出版した場合は、出版日から起算して 10 年を上限とした広報保留延長が可能）。

（他者への権利帰属に関する事由）

☐ 博士論文が特定個人の情報を含むことで、インターネットの利用により公表することができないため（公表可能時期未定）。

☐ 博士論文が他者の著作物を含み、博士論文への掲載は認められたが、インターネットの利用により公表することに対し承諾が得られなかったため（公表可能時期未定）。

（特許・その他の事由）

☐ 特許や実用新案の申請との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により、明らかな不利益が生じるため（公表可能時期未定）。

☐ 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内用を含むため（公表可能時期未定）。

☐ その他、やむを得ない特別な事由があるため（５年上限）。

※事由を具体的に明記すること。

２．全文を公表できない事由の解消見込み時期

☐　西暦　　年　　月　　日　　☐　未定

申請者氏名　　印　　学位取得(予定)日　西暦　　年　　月　　日

※自署の場合は押印不要

主任指導教員確認欄 ※論文博士は不要	印

（様式 11）

西暦　　年　　月　　日

医 理 工 学 院 長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留事由の解消届

私が執筆した博士論文の全文について、下記公表可能日以降に、インターネットの利用による公表が可能となりましたので、届け出ます。

記

公表可能日：　西暦　　年　　月　　日 以降

届出者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得日　西暦　　年　　月　　日

学位記番号

（様式 12）

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留延長申請書

私は、博士論文全文の公表保留を申請していましたが、当初予定していた公表保留事由の解消見込み時期においても下記の事由により公表することができませんので、公表保留の延長を申請します。

なお、全文を公表できない事由が解消した際には、速やかにその旨を報告します。

１．公表保留延長を希望する事由

☐ 博士論文のデータを含む論文を学術ジャーナルに投稿済、あるいは投稿予定であり、当該学術ジャーナルの規定により、インターネット公表できない期間が継続するため。

（公表延長可能期間：1 回の申請につき 1 年間）

※ジャーナル名、投稿時期等を具体的に明記すること。

☐ 博士論文の内容を書籍として出版したため。（出版日：西暦　　年　　月　　日）

（公表延長可能期間：出版日から起算して原則 10 年間）

２．当初の保留申請事由解消見込み時期

西暦　　年　　月　　日

３．新たに希望する保留申請事由解消見込み時期

☐ 西暦　　年　　月　　日

☐ 未定（著作権が出版社に譲渡され、公表の合意が得られない場合のみ選択可）

申請者氏名　　印

※自署の場合は押印不要

学位取得日　西暦　　年　　月　　日

学位記番号

（申請者より委任を受けた場合）

教員氏名　　印

※自署の場合は押印不要

（様式 13）

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

審査委員主査＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

審 査 委 員 会 実 施 日 程 等 通 知 書

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿提出の学位論文の審査委員会を、下記のとおり実施いたしますので、お知らせします。

記

日　　時：　　月　　日（　）　　時　　分　～　　時　　分
場　　所：
発表者氏名：
論 文 題 目：

なお、日程が重複した場合は、次のとおり実施を希望いたします。

第１希望　　月　　日（　）　　時　　分　～　　時　　分

第２希望　　月　　日（　）　　時　　分　～　　時　　分

第３希望　　月　　日（　）　　時　　分　～　　時　　分

第４希望　　月　　日（　）　　時　　分　～　　時　　分

（様式 14-1：審査委員用）

西暦　　年　　月　　日

主査　殿

審査委員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学位論文審査結果報告書

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿提出の学位論文審査及び試問・試験について、下記のとおり報告します。

記

1．評　価

Ⅰ．研究立案能力	A	・	B	・	C
Ⅱ．研究遂行能力	A	・	B	・	C
Ⅲ．問題探索・解決能力	A	・	B	・	C
Ⅳ．プレゼンテーション・質疑応答能力	A	・	B	・	C

※　上記評価欄については、該当する評語を〇で囲むこと
（A：優れている　B：普通　C：劣っている）

2．総合評価　　可　・　要修正　・　否

注）可：①修正なし、②字句の修正を要する場合等
要修正：新しいデータの追加を要する場合等

3．判定理由

（様式 14-2：主査用）

西暦　　年　　月　　日

医 理 工 学 院 長　殿

審査委員主査＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学 位 論 文 審 査 結 果 報 告 書

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿提出の学位論文審査及び試問・試験を終了しましたので、下記のとおり報告します。

記

１．学位授与についての審査会の判定　　可　・　要修正　・　否

２．判定理由（判定が「否」又は「要修正」の場合に記入）

注）記入欄が不足する場合は、別紙（A4、様式任意）を追加可

３．添付書類

（様式 15）学位論文審査の要旨（1,600～2,000 字）　　１部

（様式 14-3：主査用・修正後報告）

西暦　　年　　月　　日

医 理 工 学 院 長　殿

審査委員主査＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学 位 論 文 審 査 結 果 報 告 書

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿提出の学位論文について、修正後の審査及び試問・試験を終了しましたので、下記のとおり報告します。

記

１．学位授与についての審査会の判定　　可

２．添付書類
（様式 15）学位論文審査の要旨（1,600～2,000 字）　　１部

（様式 15）

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称　　博士（医理工学）　　氏 名

審査担当者　主査
　　副査
　　副査

学 位 論 文 題 名

各様式・同記入例

様　　式

（様式１）

履　　歴　　書

本　　籍
現 住 所

ふりがな
氏　名
西暦　年　月　日生（　）

学　歴
西暦　　年　月　日
西暦　　年　月　日
西暦　　年　月　日
西暦　　年　月　日
西暦　　年　月　日

職　歴
自　西暦　　年　月　日
至　西暦　　年　月　日
自　西暦　　年　月　日
至　西暦　　年　月　日

研究歴
自　西暦　　年　月　日
至　西暦　　年　月　日

資　格

賞　罰

上記のとおり相違ありません。

西暦　　年　月　日

氏　名

記　　入　　例

（様式１）

履　　歴　　書

本　　籍　北海道（都道府県名、外国人留学生は国名）
現 住 所　北海道札幌市北区北15条西７丁目２－22

ふりがな　いりこう　たろう
氏　名　医理工　太郎
1992年 5月27日生（男）

性別

卒業式の日付

学　　歴
西暦○○○○年○○月○○日　福島県立福島高等学校卒業
西暦○○○○年○○月○○日　北海道大学医学部保健学科入学
西暦○○○○年○○月○○日　北海道大学医学部保健学科卒業
西暦○○○○年○○月○○日　北海道大学大学院医理工学院医理工学専攻修士課程入学
西暦○○○○年○○月○○日　北海道大学大学院医理工学院医理工学専攻修士課程修了
西暦○○○○年○○月○○日　北海道大学大学院医理工学院医理工学専攻博士後期課程入学
西暦○○○○年○○月○○日　北海道大学大学院医理工学院医理工学専攻博士後期課程修了予定

（誤）終了
（正）修了

職　　歴
自　西暦○○○○年○○月○○日　株式会社◎◎◎◎◎◎に入社
至　西暦○○○○年○○月○○日
自　西暦○○○○年○○月○○日　▽▽▽▽株式会社▽▽研究開発部に入社
至　現在

研 究 歴
自　西暦○○○○年○○月○○日　北海道大学大学院医理工学院医理工学専攻修士課程
至　西暦○○○○年○○月○○日　において、○○の○○に関する研究に従事
自　西暦○○○○年○○月○○日　同専攻博士後期課程において、同研究を継続
至　西暦○○○○年○○月○○日
自　西暦○○○○年○○月○○日　株式会社◎◎◎◎◎◎において、
至　西暦○○○○年○○月○○日　○○の○○に関する研究に従事

資　　格
西暦○○○○年○○月○○日　診療放射線技師免許証（第393620号）

賞　　罰
なし

該当無い場合は なし と記入

上記のとおり相違ありません。

西暦○○○○年○○月○○日

署名

氏　名　医理工　太郎

修了予定期によって次のとおり記入すること
6 月修了予定の場合：2023 年 6 月 30 日
9 月修了予定の場合：2023 年 9 月 25 日
12 月修了予定の場合：2023 年 12 月 25 日
3 月修了予定の場合：2024 年 3 月 25 日

様　　式	記　　入　　例

（様式２）

論　文　目　録

学位論文題目

参考論文題目

基礎論文・参考論文目録（様式３）添付

西暦　　年　　月　　日

学位申請者

（様式２）

論　文　目　録

学位論文題目

Studies on ○○○○○ ○○○○○ at the ○○○○○ ○○○○○ in ○○○○○

（□□□□における□□□□□□した□□□□関する研究）

又は

□□□□における□□□□□□した□□□□関する研究

（Studies on ○○○○○ ○○○○○ at the ○○○○○ ○○○○○ in ○○○○○）

・題目が英文の場合は日本語訳を、日本語の場合は英文訳を（ ）書きで付すこと
・学位論文の題目を正確に記載すること

参考論文題目

基礎論文・参考論文目録（様式３）添付

西暦○○○○年○○月○○日

署名

学位申請者　医理工　太郎

様　　式	記　　入　　例

（様式３）

基礎論文・参考論文目録

１．基礎論文

冊数：

(1)　題目：
(2)　著者名：
(3)　掲載英文学術雑誌：
(4)　掲載年月：
(5)　Impact Factor：

２．参考論文

冊数：

(1)　題目：
(2)　著者名：
(3)　掲載学術雑誌：
(4)　掲載年月：

西暦　　年　　月　　日

学位申請者

（様式３：基礎論文が１編の場合）

基礎論文・参考論文目録

１．基礎論文

冊数：１冊

(1)　題目：Activation of ･････････　･････････　in pulmonary carcinogenesis.
(2)　著者名：Taro Iriko, Ooooo Oooooo 著者名（全員、フルネーム）
(3)　掲載英文学術雑誌：Cancer Research
66:10339-10348 掲載済の場合は、巻、掲載ページを記載
(4)　掲載年月：○○○○年○月
※　掲載済でない場合の記載例　掲載予定年月：○○○○年○月
(5)　Impact Factor：3.554(20XX)
※　Impact Factor がない場合の記載例　Impact Factor：なし

１．基礎論文の掲載［掲載予定（アクセプト）を含む］英文学術雑誌の概要をホームページ等から印刷し添付すること
２．基礎論文の掲載が確約されている場合、掲載予定証明書又は受理を証明する電子メール等を添付すること
３．基礎論文の掲載［掲載予定（アクセプト）を含む］英文学術雑誌が Impact Factor のない雑誌である場合は、様式５を提出すること
４．基礎論文が共著である場合には、様式６、様式７、様式８を提出すること

２．参考論文　　参考論文を添付しない場合、**なし** と記入

冊数　２冊

(1)　題目：Esophageal ･･･　･･･with carcinoma: postoperative ････　antibodies.
(2)　著者名：Ooooo Oooooo, Taro Iriko, Ooooo Oooooo 著者名（全員、フルネーム）
(3)　掲載学術雑誌：Diseases of the Esophagus
18:413-417 掲載済の場合は、巻、掲載ページを記載
(4)　掲載年月：○○○○年○月
※　掲載済でない場合の記載例　掲載予定年月：○○○○年○月

(1)　題目：Solitary True ･･･　･･･ in an Adult.
(2)　著者名：Ooooo Oooooo, Taro Iriko, Ooooo Oooooo
(3)　掲載学術雑誌：International Journal of Gastrointestinal Cancer
(4)　掲載予定年月：○○○○年○月

西暦○○○○年○○月○○日

署名

学位申請者　医理工　太郎

様　　式	記　　入　　例

（様式３）

基礎論文・参考論文目録

１．基礎論文

冊数：

(1)　題目：
(2)　著者名：
(3)　掲載英文学術雑誌：
(4)　掲載年月：
(5)　Impact Factor：

２．参考論文

冊数：

(1)　題目：
(2)　著者名：
(3)　掲載学術雑誌：
(4)　掲載年月：

西暦　　年　　月　　日

学位申請者

（様式３：短縮修了により基礎論文２編を提出する場合）

基礎論文・参考論文目録

１．基礎論文

冊数：２冊

(1)　題目：Activation of ･････････　･････････　in pulmonary carcinogenesis.
(2)　著者名：Taro Iriko，Ooooo Oooooo 著者名（全員、フルネーム）
(3)　掲載英文学術雑誌：Cancer Research
66:10339-10348 掲載済の場合は、巻、掲載ページを記載
(4)　掲載年月：○○○○年○月
※　掲載済でない場合の記載例　掲載予定年月：○○○○年○月
(5)　Impact Factor：3.554(20XX)

(1)　題目：Solitary True ･･･　･･･ in an Adult.
(2)　著者名：Taro Iriko，Ooooo Oooooo，Ooooo Oooooo
(3)　掲載学術雑誌：International Journal of Gastrointestinal Cancer
(4)　掲載予定年月：○○○○年○月
(5)　Impact Factor：3.554(20XX)

１．基礎論文の掲載［掲載予定（アクセプト）を含む］英文学術雑誌の概要をホームページ等から印刷し添付すること
２．基礎論文が掲載予定である場合、掲載予定証明書又は受理を証明する電子メール等を添付すること
３．基礎論文が共著である場合には、様式６、様式７、様式８を提出すること
４．基礎論文の掲載［掲載予定（アクセプト）を含む］英文学術雑誌がクラリベイト・アナリティクス(Clarivate Analytics)社 Journal Citation Reports のインパクトファクターが附与されている英文雑誌であることを証明するものを添付すること（p3※8 参照）

２．参考論文　　参考論文を添付しない場合、**なし** と記入

冊数　１冊

(1)　題目：Esophageal ･･･　･･･with carcinoma: postoperative ････　antibodies.
(2)　著者名：Ooooo Oooooo，Taro Iriko，Ooooo Oooooo 著者名（全員、フルネーム）
(3)　掲載学術雑誌：Diseases of the Esophagus
18:413-417 掲載済の場合は、巻、掲載ページを記載
(4)　掲載年月：○○○○年○月
※　掲載済でない場合の記載例　掲載予定年月：○○○○年○月

西暦○○○○年○○月○○日

学位申請者　医理工　太郎　署名

様　　　式	記　　入　　例
（様式４） **（様式４）という字句は削除してください** 学位論文内容の要旨 博士の専攻分野の名称　博士（医理工学）　　氏 名 学 位 論 文 題 名	学位論文内容の要旨 博士の専攻分野の名称　博士（医理工学）　　氏 名　医理工　太郎 **変更不要** 学 位 論 文 題 名 Studies on ○○○○○ ○○○○○ at the ○○○○○ ○○○○○ in ○○○○○ （□□□□における□□□□□□した□□□□関する研究） 又は □□□□における□□□□□□した□□□□関する研究 （Studies on ○○○○○ ○○○○○ at the ○○○○○ ○○○○○ in ○○○○○） ・題目が英文の場合は日本語訳を、日本語の場合は英文訳を（ ）書きで付すこと ・学位論文の題目を正確に記載すること １．本文は、日本語の場合、**2,500 字以上で作成し**、Ａ４判２ページにまとめ、 英語の場合は、**1,000 語以上で作成し**、Ａ４判２ページにまとめる 標準　余　白：上 30㎜、下 25㎜、左右 30㎜ ポイント：10.5 ２．作成にあたっては、次の事項毎（又は【方法と結果】等組み合せ）にまとめ作成 【背景と目的】【対象と方法】又は【材料と方法】【結果】【考察】【結論】等 ３．学位授与後、本学の機関リポジトリ「HUSCAP」に掲載するので、電子媒体でも提出すること 【背景と目的】　○○○ 【対象と方法】又は【材料と方法】　○○ 【結果】　○○ 【考察】　○○ 【結論】　○○

様　　式

（様式５）

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

指導教員　分　野＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学位授与申請者の論文提出資格申請書

このことについて、下記学位授与申請者の論文提出資格審査を願いたく関係書類を添え申請いたします。

学位授与申請者

専 攻 名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学生番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ふりがな
氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（ローマ字表記）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(以下提出者記入不要)

入学年月日　　年　月　日　入学		
休 学 期 間	年　月　日 ～　年　月　日（　カ月）	
	年　月　日 ～　年　月　日（　カ月）	
	年　月　日 ～　年　月　日（　カ月）	
	年　月　日 ～　年　月　日（　カ月）	
	年　月　日 ～　年　月　日（　カ月）	
	通　算【　カ月】	
通算在学期間【　年　カ月】	修得単位数【　単位】	

記　　入　　例

（様式５）

西暦○○○○年○○月○○日

医理工学院長　殿

署名

指導教員　分　野　○○○○○○分　野

氏　名　○　○　○　○

学位授与申請者の論文提出資格申請書

このことについて、下記学位授与申請者の論文提出資格審査を願いたく関係書類を添え申請いたします。

学位授与申請者

専 攻 名　医理工学専攻

学生番号　５６××５０××

ふりがな　いりこうたろう
氏　　名　医理工　太　郎　（ローマ字表記）　IRIKO Taro

(以下提出者記入不要)

入学年月日　　年　月　日　入学		
休 学 期 間	年　月　日 ～　年　月　日（　カ月）	
	年　月　日 ～　年　月　日（　カ月）	
	年　月　日 ～　年　月　日（　カ月）	
	年　月　日 ～　年　月　日（　カ月）	
	年　月　日 ～　年　月　日（　カ月）	
	通　算【　カ月】	
通算在学期間【　年　カ月】	修得単位数【　単位】	

様　　式	記　　入　　例

（別紙１）

博士論文のインターネット公表　事前チェックリスト

学位規則（昭和 28 年文部省令　第九号、平成 25 年 4 月 1 日改正）の定めにより、**博士学位を授与された者は、その授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があります。**ただし、博士論文を投稿している学術ジャーナルの規定により公表が認められない場合など、やむを得ない理由がある場合はこの限りではありません。

学位論文を申請する際には、事前に本チェックリストを用いて自身の論文がインターネット公表可能であるか確認してください。

学術ジャーナルの投稿規定の確認方法や解釈等、チェック項目の中にどのようにすればいいか分からない点がある場合は、附属図書館の相談ホットライン（huscap@lib.hokudai.ac.jp ／電話 011-706-2524・011-706-4741（平日 9 時～17 時））に問い合わせてください。

チェック項目

(1) □　他者に個人情報、著作権、肖像権その他、法令により保護される権利が帰属する図表やデータを含んでいないかどうか確認した。

（他者に権利が帰属する内容を含んでいた場合）

□　当該他者に対し、①論文に含めること、②学位授与から１年以内にインターネット公表することについて許諾を得るための手続きを行った。

※①の許諾を得られなかった場合は、指導教員に相談すること。

※②の許諾を得られなかった場合は、あわせて「公表保留承認申請書」を提出すること。

以下（2）～（5）は該当する場合に確認してください。

（学術ジャーナルにすでに掲載されている、掲載予定である、または現在投稿中の場合）

(2) □　掲載された学術ジャーナルの投稿規定を読み、学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められているかどうか確認した。

（認められていない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

（学術ジャーナルに投稿予定である場合）

(3) □　投稿予定の学術ジャーナルの投稿規定を読み、大学の機関リポジトリに掲載することが多重投稿規定等に抵触しないかどうか確認した。

（抵触する場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

（書籍として出版予定の場合）

(4) □　出版社との契約上、学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められるかどうか確認した。

（認められない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

（特許・実用新案出願（既取得国以外の国への国内移転）予定の場合）

(5) □　出願及び国内移転手続きのため、インターネット公表できない根拠及び期間を確認した。

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

該当する項目をチェックしてください

（別紙１）

博士論文のインターネット公表　事前チェックリスト

学位規則（昭和 28 年文部省令　第九号、平成 25 年 4 月 1 日改正）の定めにより、**博士学位を授与された者は、その授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があります。**ただし、博士論文を投稿している学術ジャーナルの規定により公表が認められない場合など、やむを得ない理由がある場合はこの限りではありません。

学位論文を申請する際には、事前に本チェックリストを用いて自身の論文がインターネット公表可能であるか確認してください。

学術ジャーナルの投稿規定の確認方法や解釈等、チェック項目の中にどのようにすればいいか分からない点がある場合は、附属図書館の相談ホットライン（huscap@lib.hokudai.ac.jp ／電話 011-706-2524・011-706-4741（平日 9 時～17 時））に問い合わせてください。

チェック項目

(1) ☑　他者に個人情報、著作権、肖像権その他、法令により保護される権利が帰属する図表やデータを含んでいないかどうか確認した。

（他者に権利が帰属する内容を含んでいた場合）

☑　当該他者に対し、①論文に含めること、②学位授与から１年以内にインターネット公表することについて許諾を得るための手続きを行った。

※①の許諾を得られなかった場合は、指導教員に相談すること。

※②の許諾を得られなかった場合は、あわせて「公表保留承認申請書」を提出すること。

以下（2）～（5）は該当する場合に確認してください。

（学術ジャーナルにすでに掲載されている、掲載予定である、または現在投稿中の場合）

(2) □　掲載された学術ジャーナルの投稿規定を読み、学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められているかどうか確認した。

（認められていない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

（学術ジャーナルに投稿予定である場合）

(3) ☑　投稿予定の学術ジャーナルの投稿規定を読み、大学の機関リポジトリに掲載することが多重投稿規定等に抵触しないかどうか確認した。

（抵触する場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

（書籍として出版予定の場合）

(4) □　出版社との契約上、学位授与から１年以内に大学の機関リポジトリに掲載することが認められるかどうか確認した。

（認められない場合）

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

（特許・実用新案出願（既取得国以外の国への国内移転）予定の場合）

(5) □　出願及び国内移転手続きのため、インターネット公表できない根拠及び期間を確認した。

※インターネット公表が可能となる日が学位授与から①１年以内の場合は「公表可能日の連絡届」、②１年を超える場合は、「公表保留承認申請書」を提出すること。

様　　　式

（別紙２）

基礎論文の掲載学術雑誌についてのコメント

基礎論文題目：

基礎論文提出者：

基礎論文掲載雑誌：

コメント内容：

西暦　　　　年　　月　　日

主任指導教員　分野

氏名

記　　　入　　　例

（別紙２）

※　本様式は、基礎論文の掲載（掲載予定、投稿中を含む）学術雑誌が Impact Factor のない雑誌である場合にのみ提出すること

基礎論文の掲載学術雑誌についてのコメント

基礎論文題目：Activation of ・・・・・・・・・・・・・・・・ in pulmonary carcinogenesis.

基礎論文の題目を正確に記載すること

基礎論文提出者：医理工　太郎

基礎論文掲載雑誌：Gastrointestinal Cancer Research

コメント内容:○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○
○○○掲載学術雑誌の発行年、掲載学術雑誌の学会等における評価等、掲載学術雑誌がレフリー制度のある英文学術雑誌であることについてのコメント○○○○○○○○○○○○
○○
○○
○○
○○○○○○○○

署名

西暦○○○○年○○月○○日

主任指導教員　分野　○○○○○○分野

氏名　○　○　○　○

様　　式	記　　入　　例

（様式６）

「共著論文」学位申請自己申告書

西暦　　年　　月　　日

医 理 工 学 院 長　殿

学位授与申請者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

基礎論文題目

上記基礎論文は、下記の者との共著でありますが、私が主として研究しまとめたものであり、私が学位申請論文の基礎論文として提出することについて、主任指導教員の証明書及び他の共著者が本論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことなどの承諾（誓約）を添えて申告いたします。

記

氏　　名	所　　属　・　身　　分

（様式６）

※　本様式は、基礎論文が共著である場合にのみ提出すること

「共著論文」学位申請自己申告書

西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

医 理 工 学 院 長　殿

署名

学位授与申請者　医理工　太郎

基礎論文題目

Activation of ･････････　･････････ in pulmonary carcinogenesis.

基礎論文の題目を正確に記載すること

上記基礎論文は、下記の者との共著でありますが、私が主として研究しまとめたものであり、私が学位申請論文の基礎論文として提出することについて、主任指導教員の証明書及び他の共著者が本論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことなどの承諾（誓約）を添えて申告いたします。

氏名・所属等については、共著者が作成する様式８「共著論文」共著者承諾（誓約）書と照合・確認

記

氏　　名	所　　属　・　身　　分
北　大　高　志	〇〇〇〇医化学研究所薬品分析部・主任研究員
札　幌　一　郎	〇〇医科大学医学部〇〇〇講座・教授
菊　水　　通	〇〇医科大学医学部〇〇〇講座・准教授
石　狩　街　道	北海道大学大学院医学研究科〇〇〇〇〇分野・教授

様　　式	記　　入　　例

（様式７）

「共著論文」主論文証明書

西暦　　年　　月　　日

医 理 工 学 院 長　　殿

所　　属＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

指導教員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

基礎論文題目

上記論文は、共著論文でありますが、下記の学位授与申請者が主として研究し、まとめたものであり、他の共著者は本論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことを確認していることを証明します。

記

学位授与申請者：所　属

氏　名

（様式７）

※　本様式は、基礎論文が共著である場合にのみ提出すること

「共著論文」主論文証明書

西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

医 理 工 学 院 長　　殿

所　　属　〇〇〇〇〇〇分野

主任指導教員　〇　〇　〇　〇

署名

基礎論文題目

Activation of ･････････　･････････ in pulmonary carcinogenesis.

基礎論文の題目を正確に記載すること

上記論文は、共著論文でありますが、下記の学位授与申請者が主として研究し、まとめたものであり、他の共著者は本論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことを確認していることを証明します。

記

学位授与申請者：所　属　北海道大学大学院医理工学院
医理工学専攻

氏　名　医理工　太郎

様　　式	記　　入　　例

（様式８）

「共著論文」共著者承諾（誓約）書

西暦　　年　　月　　日

北海道大学大学院医理工学院長　殿

所属・身分

氏　　名

基礎論文題目

上記論文は、下記の学位授与申請者と共著したものでありますが、この度学位授与申請者が学位申請論文の基礎論文（学位申請論文の基盤をなす論文）とすることについて、これを承諾し、かつ、私はこの論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことを誓約します。

記

学位授与申請者：所　属

氏　名

（様式８）

※　本様式は、基礎論文が共著である場合にのみ提出すること

「共著論文」共著者承諾（誓約）書

西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

共著者が署名した日付を記入

北海道大学大学院医理工学院長　殿

共著者の所属・身分が共著論文執筆時と異なる場合は、**現在の所属・身分の記載でよい**

「共著論文」学位申請自己申告書と一致すること

所属・身分　〇〇〇〇医化学研究所
薬品分析部・主任研究員

氏　　名　　北　大　高　志

署名

基礎論文題目

Activation of ･････････　･････････ in pulmonary carcinogenesis.

基礎論文の題目を正確に記載すること

上記論文は、下記の学位授与申請者と共著したものでありますが、この度学位授与申請者が学位申請論文の基礎論文（学位申請論文の基盤をなす論文）とすることについて、これを承諾し、かつ、私はこの論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことを誓約します。

記

学位授与申請者：所　属　北海道大学大学院医理工学院
医理工学専攻

氏　名　医理工　太郎

様　　式	記　　入　　例

（様式８：連名用）

「共著論文」共著者承諾（誓約）書

西暦　　年　　月　　日

北海道大学大学院医理工学院長　殿

所属・身分

氏　　名

所属・身分

氏　　名

基礎論文題目

上記論文は、下記の学位授与申請者と共著したものでありますが、この度学位授与申請者が学位申請論文の基礎論文（学位申請論文の基盤をなす論文）とすることについて、これを承諾し、かつ、私はこの論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことを誓約します。

記

学位授与申請者：所 属

氏 名

（様式８：連名用）

※　本様式は、基礎論文が共著である場合にのみ提出すること

「共著論文」共著者承諾（誓約）書

西暦○○○○年○○月○○日

共著者が署名した日付を記入

北海道大学大学院医理工学院長　殿

所属・身分　○○医科大学医学部
○○○講座　教授

氏　　名　札　幌　一　郎

署名

所属・身分　○○医科大学医学部
○○○講座　准教授

氏　　名　菊　水　　通

基礎論文題目

Activation of ･････････　･････････ in pulmonary carcinogenesis.

基礎論文の題目を正確に記載すること

上記論文は、下記の学位授与申請者と共著したものでありますが、この度学位授与申請者が学位申請論文の基礎論文（学位申請論文の基盤をなす論文）とすることについて、これを承諾し、かつ、私はこの論文を学位論文又は学位申請論文の基礎論文として、過去に使用しておらず、将来においても使用しないことを誓約します。

記

学位授与申請者：所 属　北海道大学大学院医理工学院
医理工学専攻

氏 名　医理工　太郎

様　　式	記　　入　　例

（様式９）

（様式９）という字句は削除してください

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

博士論文全文のインターネット公表可能日の連絡届

私が執筆した博士論文の全文は、下記公表可能日以降に、インターネットの利用により公表願います。

記

公表可能日：　西暦　　年　　月　　日 以降

届出者氏名　　印
※自署の場合は押印不要

学位取得予定日　西暦　　年　　月　　日

※　本様式は、学位取得予定日から１年以内の一定期間、公表を保留する必要がある場合に提出するものです。

西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

医理工学院長　殿

博士論文全文のインターネット公表可能日の連絡届

私が執筆した博士論文の全文は、下記公表可能日以降に、インターネットの利用により公表願います。

記

公表可能日：　西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日 以降

署名

届出者氏名　医理工　太郎　　印
※自署の場合は押印不要

学位取得予定日　西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

※　本様式は、学位取得予定日から１年以内の一定期間、公表を保留する必要がある場合に提出するものです。

様　　式

（様式 10）

（様式 10）という字句は削除してください

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留承認申請書

私は、博士学位を授与された者は、その授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があることを理解しました。そのうえで、次の事由により、博士論文の全文を学位取得予定日から１年以内に公表することができませんので、博士論文の内容を要約したものを公表することを申請します。

なお、全文を公表できない事由が解消した際には、速やかにその旨を報告します。

１．博士論文全文をインターネットの利用により公表できない事由

下記事由のうち、公表保留の期限に上限が設けられている場合は、下記２で記載する公表できない事由の解消見込み日、又は公表保留上限年数（以下、公表保留期限と言う。）を経過した段階で自動的に本学リポジトリへ博士論文全文を掲載します。公表保留を延長する場合には、公表保留期限到達前の所定の日までに申請者本人又は本人から委任を受けた本学教員が公表保留延長申請書（別様式）を提出する必要があります。

（学術ジャーナルへの投稿・書籍出版による事由）

☐ 投稿済み、あるいは投稿中の学術ジャーナルの規定により、学位取得予定日から１年を超えてインターネット公表できない期間が継続するため（５年上限、ただし１年毎の延長が可能）。

ジャーナル名（　　）　掲載時期（　　）

☐ 多重公表を禁止する学術ジャーナルへの投稿を予定しているため（５年上限、ただし１年毎の延長が可能）。

ジャーナル名（　　）　掲載時期（　　）

☐ 書籍として出版する予定があるため（５年上限、ただし実際に出版した場合は、出版日から起算して 10 年を上限とした広報保留延長が可能）。

（他者への権利帰属に関する事由）

☐ 博士論文が特定個人の情報を含むことで、インターネットの利用により公表することができないため（公表可能時期未定）。

☐ 博士論文が他者の著作物を含み、博士論文への掲載は認められたが、インターネットの利用により公表することに対し承諾が得られなかったため（公表可能時期未定）。

（特許・その他の事由）

☐ 特許や実用新案の申請との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により、明らかな不利益が生じるため（公表可能時期未定）。

☐ 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内用を含むため（公表可能時期未定）。

☐ その他、やむを得ない特別な事由があるため（５年上限）。

※事由を具体的に明記すること。

２．全文を公表できない事由の解消見込み時期

☐ 西暦　　年　　月　　日　　☐ 未定

申請者氏名　　印　　学位取得(予定)日　西暦　　年　　月　　日

※自署の場合は押印不要

主任指導教員確認欄 ※論文博士は不要	印

※自署の場合は押印不要

該当する項目をチェックしてください（複数選択可）

いずれかの項目に必ずチェックをいれてください

記　　入　　例

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留承認申請書

私は、博士学位を授与された者は、その授与された日から１年以内に博士論文の全文をインターネットにより公表する義務があることを理解しました。そのうえで、次の事由により、博士論文の全文を学位取得予定日から１年以内に公表することができませんので、博士論文の内容を要約したものを公表することを申請します。

なお、全文を公表できない事由が解消した際には、速やかにその旨を報告します。

１．博士論文全文をインターネットの利用により公表できない事由

下記事由のうち、公表保留の期限に上限が設けられている場合は、下記２で記載する公表できない事由の解消見込み日、又は公表保留上限年数（以下、公表保留期限と言う。）を経過した段階で自動的に本学リポジトリへ博士論文全文を掲載します。公表保留を延長する場合には、公表保留期限到達前の所定の日までに申請者本人又は本人から委任を受けた本学教員が公表保留延長申請書（別様式）を提出する必要があります。

（学術ジャーナルへの投稿・書籍出版による事由）

☑ 投稿済み、あるいは投稿中の学術ジャーナルの規定により、学位取得予定日から１年を超えてインターネット公表できない期間が継続するため（５年上限、ただし１年毎の延長が可能）。

ジャーナル名（　　）　掲載時期（　　）

☐ 多重公表を禁止する学術ジャーナルへの投稿を予定しているため（５年上限、ただし１年毎の延長が可能）。

ジャーナル名（　　）　掲載時期（　　）

☐ 書籍として出版する予定があるため（５年上限、ただし実際に出版した場合は、出版日から起算して 10 年を上限とした広報保留延長が可能）。

（他者への権利帰属に関する事由）

☐ 博士論文が特定個人の情報を含むことで、インターネットの利用により公表することができないため（公表可能時期未定）。

☐ 博士論文が他者の著作物を含み、博士論文への掲載は認められたが、インターネットの利用により公表することに対し承諾が得られなかったため（公表可能時期未定）。

（特許・その他の事由）

☐ 特許や実用新案の申請との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により、明らかな不利益が生じるため（公表可能時期未定）。

☐ 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内用を含むため（公表可能時期未定）。

☐ その他、やむを得ない特別な事由があるため（５年上限）。

※事由を具体的に明記すること。

２．全文を公表できない事由の解消見込み時期

☑ 西暦　　年　　月　　日　　☐ 未定

申請者氏名　医理工　太郎　印　　学位取得(予定)日　西暦　　年　　月　　日

※自署の場合は押印不要

主任指導教員確認欄 ※論文博士は不要	○　○　○　○　印

※自署の場合は押印不要

署名

様　　式	記　　入　　例

（様式 11）という字句は削除してください

（様式 11）

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留事由の解消届

私が執筆した博士論文の全文について、下記公表可能日以降に、インターネットの利用による公表が可能となりましたので、届け出ます。

記

公表可能日：　西暦　　年　　月　　日 以降

届出者氏名　　印
※自署の場合は押印不要

学位取得日　西暦　　年　　月　　日

学位記番号

西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

医理工学院長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留事由の解消届

私が執筆した博士論文の全文について、下記公表可能日以降に、インターネットの利用による公表が可能となりましたので、届け出ます。

記

公表可能日：　西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日 以降

署名

届出者氏名　医理工　太郎　印
※自署の場合は押印不要

学位取得日　西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

学位記番号　〇〇〇〇〇

様　　式

（様式 12）

（様式 12）という字句は削除してください

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留延長申請書

私は、博士論文全文の公表保留を申請していましたが、当初予定していた公表保留事由の解消見込み時期においても下記の事由により公表することができませんので、公表保留の延長を申請します。
なお、全文を公表できない事由が解消した際には、速やかにその旨を報告します。

１．公表保留延長を希望する事由

☐ 博士論文のデータを含む論文を学術ジャーナルに投稿済、あるいは投稿予定であり、当該学術ジャーナルの規定により、インターネット公表できない期間が継続するため。
（公表延長可能期間：1 回の申請につき 1 年間）

※ジャーナル名、投稿時期等を具体的に明記すること。

☐ 博士論文の内容を書籍として出版したため。（出版日：西暦　　年　　月　　日）
（公表延長可能期間：出版日から起算して原則 10 年間）

２．当初の保留申請事由解消見込み時期

西暦　　年　　月　　日

３．新たに希望する保留申請事由解消見込み時期

☐ 西暦　　年　　月　　日
☐ 未定（著作権が出版社に譲渡され、公表の合意が得られない場合のみ選択可）

申請者氏名　　印
※自署の場合は押印不要

学位取得日　西暦　　年　　月　　日

学位記番号

（申請者より委任を受けた場合）

教員氏名　　印
※自署の場合は押印不要

記　　入　　例

いずれかの項目に必ずチェックをいれてください

西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

医理工学院長　殿

博士論文全文のインターネット公表保留延長申請書

私は、博士論文全文の公表保留を申請していましたが、当初予定していた公表保留事由の解消見込み時期においても下記の事由により公表することができませんので、公表保留の延長を申請します。
なお、全文を公表できない事由が解消した際には、速やかにその旨を報告します。

１．公表保留延長を希望する事由

☑ 博士論文のデータを含む論文を学術ジャーナルに投稿済、あるいは投稿予定であり、当該学術ジャーナルの規定により、インターネット公表できない期間が継続するため。
（公表延長可能期間：1 回の申請につき 1 年間）

※ジャーナル名、投稿時期等を具体的に明記すること。

☐ 博士論文の内容を書籍として出版したため。（出版日：西暦　　年　　月　　日）
（公表延長可能期間：出版日から起算して原則 10 年間）

２．当初の保留申請事由解消見込み時期

西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

３．新たに希望する保留申請事由解消見込み時期

☑ 西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日
☐ 未定（著作権が出版社に譲渡され、公表の合意が得られない場合のみ選択可）

署名

申請者氏名　医理工　太郎　印
※自署の場合は押印不要

学位取得日　西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

学位記番号　〇〇〇〇〇

（申請者より委任を受けた場合）

教員氏名　〇　〇　〇　〇　印
※自署の場合は押印不要

様　　式	記　　入　　例

（様式 13）

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

主査氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

審 査 委 員 会 実 施 日 程 等 通 知 書

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿提出の学位論文の審査委員会を、下記のとおり実施いたしますので、お知らせします。

記

日　　時：　　月　　日（　）　　時　　分　～　　時　　分
場　　所：
発表者氏名：
論 文 題 目：

なお、日程が重複した場合は、次のとおり実施を希望いたします。

第１希望　　月　　日（　）　　時　　分　～　　時　　分

第２希望　　月　　日（　）　　時　　分　～　　時　　分

第３希望　　月　　日（　）　　時　　分　～　　時　　分

第４希望　　月　　日（　）　　時　　分　～　　時　　分

実施時間帯
① 9:00～10:00　②10:00～11:00　③11:00～12:00
④13:00～14:00　⑤14:00～15:00　⑥15:00～16:00
⑦16:00～17:00

（様式 13）

西暦〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

医理工学院長　殿

主査氏名　〇　〇　〇　〇
署名

審 査 委 員 会 実 施 日 程 等 通 知 書

＿＿医理工　太郎＿＿＿提出の学位論文の審査委員会を、下記のとおり実施いたしますので、お知らせします。

記

日　　時：　　月　　日（　）　　時　　分　～　　時　　分
場　　所：
発表者氏名：
論 文 題 目：

なお、日程が重複した場合は、次のとおり実施を希望いたします。

第１希望　　〇月〇日（〇）　　９時００分　～　１０時００分

第２希望　　〇月〇日（〇）　１０時００分　～　１１時００分

第３希望　　〇月〇日（〇）　　９時００分　～　１０時００分

第４希望　　〇月〇日（〇）　１３時００分　～　１４時００分

様　　式	記　　入　　例

（様式 14-1：審査委員用）

西暦　　年　　月　　日

主査　殿

審査委員＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学位論文審査結果報告書

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿提出の学位論文審査及び試問・試験について、下記のとおり報告します。

記

1．評　価

Ⅰ．研究立案能力　　A　・　B　・　C

Ⅱ．研究遂行能力　　A　・　B　・　C

Ⅲ．問題探索・解決能力　　A　・　B　・　C

Ⅳ．プレゼンテーション・質疑応答能力　　A　・　B　・　C

※　上記評価欄については、該当する評語を○で囲むこと

（A：優れている　B：普通　C：劣っている）

2．総合評価　　可　・　要修正　・　否

注）可：①修正なし、②字句の修正を要する場合等
要修正：新しいデータの追加を要する場合等

3．判定理由

（様式 14-1：審査委員用）

西暦　　年　　月　　日

主査　殿

審査委員 ○　○　○　○

署名

学位論文審査結果報告書

＿医理工　太郎＿提出の学位論文審査及び試問・試験について、下記の下記のとおり報告します。

記

1．評　価

Ⅰ．研究立案能力　　(A)　・　B　・　C

Ⅱ．研究遂行能力　　A　・　(B)　・　C

Ⅲ．問題探索・解決能力　　(A)　・　B　・　C

Ⅳ．プレゼンテーション・質疑応答能力　　A　・　(B)　・　C

※　上記評価欄については、該当する評語を○で囲むこと

（A：優れている　B：普通　C：劣っている）

2．総合評価　　(可)　・　要修正　・　否

注）可：①修正なし、②字句の修正を要する場合等
要修正：新しいデータの追加を要する場合等

3．判定理由

【否の場合のコメントの例】

1)　本論文の仮説「---------」は不適切または誤りであり、正しい結論に達することはできない。

2)　本論文で主に使われている研究方法「---------」は不適切または誤りであり、正しい結論に達することはできない。

3)　「---------」、「---------」および「---------」など多くのデータが不足していて（想定される必要データ量の約 60%以上が不足）、大幅にデータを追加しなければならない（学位申請論文が質的・量的に変化してしまう）。

4)　本論文の内容には全く新規性が認められない。

【要修正の場合のコメント】

データが一部不足しているために（想定される必要データ量の約 40%未満だけが不足）、正しい結論に達することはできないが、追加実験をすることにより、当初の結論に到達することができる場合で、たとえば、「---------」という結論に達するためには、以下に述べる 2 つのデータが必要であるというように具体的にコメントを書く。

様　　式	記　　入　　例

（様式 14-2：主査用）

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

主査＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学位論文審査結果報告書

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿提出の学位論文審査及び試験・試験を終了しましたので、下記のとおり報告します。

記

１．学位授与についての審査会の判定　　可　・　要修正　・　否

２．判定理由（判定が「否」又は「要修正」の場合に記入）

注）記入欄が不足する場合は、別紙（A4、様式任意）を追加可

３．添付書類

（様式 15）学位論文審査の要旨（1,600～2,000 字）　　１部

（様式 14-2：主査用）

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

主査＿○　○　○　○＿

署名

学位論文審査結果報告書

＿医理工　太郎＿提出の学位論文審査及び試験・試験を終了しましたので、下記のとおり報告します。

記

１．学位授与についての審査会の判定　　(可)　・　要修正　・　否

２．判定理由（判定が「否」又は「要修正」の場合に記入）

【否の場合のコメントの例】
1)　本論文の仮説「---------」は不適切または誤りであり、正しい結論に達することはできない。
2)　本論文で主に使われている研究方法「---------」は不適切または誤りであり、正しい結論に達することはできない。
3)　「---------」、「---------」および「---------」など多くのデータが不足していて（想定される必要データ量の約 60%以上が不足）、大幅にデータを追加しなければならない（学位申請論文が質的・量的に変化してしまう）。
4)　本論文の内容には全く新規性が認められない。

【要修正の場合のコメント】
データが一部不足しているために（想定される必要データ量の約 40%未満だけが不足）、正しい結論に達することはできないが、追加実験をすることにより、当初の結論に到達することができる場合で、たとえば、「---------」という結論に達するためには、以下に述べる 2 つのデータが必要であるというように具体的にコメントを書く。

注）記入欄が不足する場合は、別紙（A4、様式任意）を追加可

３．添付書類

（様式 15）学位論文審査の要旨（1,600～2,000 字）　　１部

様　　式	記　　入　　例

（様式 14-3：主査用・修正後報告）

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

主査＿＿＿＿＿＿＿＿

学位論文審査結果報告書

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿提出の学位論文について、修正後の審査及び試問・試験を終了しましたので、下記のとおり報告します。

記

１．学位授与についての審査会の判定　　可

２．添付書類
（様式 15）学位論文審査の要旨（1,600～2,000 字）　　１部

（様式 14-3：主査用・修正後報告）

西暦　　年　　月　　日

医理工学院長　殿

主査＿○　○　○　○＿

署名

学位論文審査結果報告書

＿医理工　太郎＿提出の学位論文について、修正後の審査及び試問・試験を終了しましたので、下記のとおり報告します。

記

１．学位授与についての審査会の判定　　可

２．添付書類
（様式 15）学位論文審査の要旨（1,600～2,000 字）　　１部

様　　　式	記　　入　　例

（様式 15）

（様式 15）という字句は削除してください

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称　　博士（医理工学）　　氏　名

審査担当者　主査
　　　　　　副査
　　　　　　副査

学位論文題名

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称　　博士（医理工学）　　氏　名　医理工　太郎

変更不要

審査担当者　主査　教授　〇　〇　〇　〇
　　　　　　副査　教授　〇　〇　　　〇
　　　　　　副査　教授　〇　〇　〇　〇

職名を必ず記入すること

学位論文題名

Studies on 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 at the 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 in 〇〇〇〇〇
（□□□□における□□□□□□した□□□□関する研究）
又は
□□□□における□□□□□□した□□□□関する研究
（Studies on 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 at the 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 in 〇〇〇〇〇）

・題目が英文の場合は日本語訳を、日本語の場合は英訳を（ ）書きで付すこと
・学位論文の題目を正確に記載すること

１．本文は、 1,600 字以上～2,000 字以内、Ａ４判２ページ以内にまとめる。
　標準　余　白：上 30㎜、下 25㎜、左右 30㎜
　　　　ポイント：10.5

２．学位論文の内容要約、質疑応答の内容、学位論文及び公開発表に対する審査委員の評価などについて、具体的に記入。
　なお、この審査の要旨は、すでに提出されている「学位論文内容の要旨」と対で本学の機関リポジトリ「HUSCAP」に公表するものであることから、**学位論文内容の要約を主体とせず、審査内容を主体に作成してください。**

３．項目（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、序論、結論等）で区切らず１文にまとめてください。

〇〇。
　審査にあたり、まず副査の〇〇教授から〇〇〇について質問があり、申請者は、〇〇〇と回答した。副査の〇〇教授からは〇〇〇について質問があり、申請者は、〇〇〇ことを回答した。副査の〇〇教授からは〇〇〇という質問があり、申請者は、〇〇〇であると回答した。最後に主査の〇〇教授から〇〇〇について質問があり、申請者は、〇〇〇と回答した。
　この論文は、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇において高く評価され、今後の〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇が期待される。
　審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や修得単位などもあわせ、申請者が博士（医理工学）の学位を受けるのに充分な資格を有するものと判定した。

（誤）過程
（正）課程

（誤）医理工学博士
（正）博士（医理工学）

◆◆◆学位申請論文作成の手引き◆◆◆

学位申請論文とは

1) 学位申請論文の特徴は、投稿論文とは異なり、申請者が研究を遂行するに当たって直面した様々な困難にどのように立ち向かい、論理的な結論に達したかという思考過程を重視する点にあります。従って、その思考過程とそれにより生じた結果を記載することが重要です。

2) 複数のテーマが存在する場合には、それぞれのテーマがどのように関連しているかを論理的に説明していただく必要があります。

3) したがって、投稿論文そのものは学位申請論文とはなりえません。すなわち、学位申請論文では、投稿論文には記載されていない基礎的事項の説明、詳細な研究背景、基礎実験やパイロット実験の結果（たとえ結果がネガティブであってもかまわない）などが必ず記載されていなければなりません。

4) 本文は、和文または英文は問いません。

5) 本文が和文の場合は和文の主題目を、本文が英文の場合は英文の主題目を付けたうえで、それぞれ英文または和文の副題目を括弧内に記載してください。
例：【本文が和文の場合】
○○○における○○した○○に関する研究
（Studies on ○○○ ○○ at the ○○ ○○ in ○○）
【本文が英文の場合】
Studies on ○○○ ○○ at the ○○ ○○ in ○○
（○○○における○○した○○に関する研究）

学位申請論文の構成

次の A) ~ K)の項目から構成されます。
ページ番号は「発表論文目録及び学会発表目録」を第 1 ページとして、以下順番に付けてください。本文は、おおよそ 1 ページ 40 行、1 行 40 文字を目安とし、12 ポイント程度の明朝体で作成してください。

A) 表紙

学位論文と記載した後、論文タイトル、授与年月、北海道大学、氏名を記載してください(表表紙を捲って白紙一枚をはさみ、中表紙に同じ項目を記載する)。

表表紙

学　位　論　文

Studies on OOO OO at the OO OO in OO

（○○○における○○した○○に関する研究）

又は

○○○における○○した○○に関する研究

(Studies on OOO OO at the OO OO in OO)

２０××年×月

北　海　道　大　学

医理工　太郎

白　紙

中表紙

学　位　論　文

Studies on OOO OO at the OO OO in OO

（○○○における○○した○○に関する研究）

又は

○○○における○○した○○に関する研究

(Studies on OOO OO at the OO OO in OO)

２０××年×月

海　道　大　学

医理工　太郎

題目は、英文で記載した場合は（　）書きで日本語の副題目を、日本語で記載した場合は（　）書きで英文の副題目を付けること
学位論文の題目を正確に記載すること

氏名を２段書にし、ローマ字を併記することは可能です

B) 目次

C)~K)の各項目の名称（場合によっては各項目のサブタイトルも含む）を記載するとともに、それぞれが始まるページ数を記載してください。

＊作成例＊

目　　次

発表論文目録および学会発表目録 …… １頁
緒言 …… ○頁
略語表 …… ○頁
実験方法 …… ○頁
実験結果 …… ○頁
考察 …… ○頁
総括および結論 …… ○頁
謝辞 …… ○頁
引用文献 …… ○頁

C) 発表論文目録および学会発表目録

論文については、著者名・論文タイトル・雑誌名・発表年（掲載済みの場合には、巻数・ページなども含む）を記載するとともに、アクセプトの場合は発表予定などを記載してください。また、投稿中の場合はその旨を記載してください。学会発表は、全国規模の学会と国際学会での発表に限り、発表者名・演題名・学会名・日時・場所などを記載してください。

＊作成例＊

発表論文目録および学会発表目録

本研究の一部は以下の論文に発表した。

1．○○○○（著者名）共著の場合は全員の氏名を記載
○○○○○○○○○○に関する研究（論文タイトル）
学術雑誌名、巻数・ページ，（発表年）

2．○○○○（著者名）
○○○○○○○○○に関する一考察（論文タイトル）
学術雑誌名、巻数・ページ，（発表年）

3．○○○○（著者名）
○○○○○○に関する○○学的研究（論文タイトル）
学術雑誌名、巻数・ページ，（発表年）

本研究の一部は以下の学会に発表した。

1．○○○○（発表者名）共同発表の場合は全員の氏名を記載
○○○○○○○○○○○○に関する研究（演題名）
学会名（第○回○○○学会）、日時・場所

2．○○○○（発表者名）
○○○○○○○○○○○○に関する一考察（演題名）
学会名（第○回○○○学会）、日時・場所

3．○○○○（発表者名）
○○○○○○○○○○に関する○○学的研究（演題名）
学会名（第○回○○○学会）、日時・場所

D) 緒言

①論文の背景（本研究の重要性・意義、テーマに関連した事項の説明など）、②テーマに関連して、何がわかっていて何がわかっていないのか、③前 2 項を踏まえて、この研究では何を明らかにしようとするのか、④本研究によって何が明らかになったのか（結論的なもの）、などの点を中心に詳細に記載してください。

[注意]

テーマが複数存在していて、各テーマについて独立して記載する必要がある場合には、全体の緒言を記載した後、第一章、第二章、----というふうに分けて、各章に次の項目を設定してください。①章のタイトル、②緒言（この章に関連したもの）、③実験方法、④実験結果、⑤考察、第二章以下では、前の章の研究との関連を論理的に説明してください。

E) 略語表

略語の使用は望ましくありませんが、やむを得ず使用する場合には、本文中で最初に使用する時にフルネームで記述し、括弧書きで略語を記載してください。略語表には本文で使用した略語をアルファベット順に一括して掲載し、各略語のフルネームを記載してください。

＊作成例＊

本文中および図中で使用した略語は以下のとおりである。

LCM	laser capture microscopy
miRNAs	microRNAs
UTR	3'-untranslated region

F) 実験方法

この論文に記載されている実験方法を読めば、実験が再現できる程度（図、表、写真を用いること）に詳しく記載してください。他の論文やマニュアルを参照のことという記載は原則として不可。使用した実験機械・機器、試薬などのメーカー等を明記してください。

なお、この論文の作成に際し行った臨床研究、動物実験や遺伝子組換え実験などについては、各種の規程・指針等（「北海道大学における人を対象とする医学系研究に関する規程」、「北海道大学動物実験に関する規程」、「北海道大学遺伝子組換え実験等安全管理規程」など）にしたがって実施したことを明記してください。

G）実験結果

サブタイトルをつけて、いくつかの内容に分けて述べてください。それぞれの図・表について、実験を行う目的、結果、データの意味するところを述べてください。なお、使用する図・表の解像度は、白黒 600dpi 以上、カラー300dpi 以上としてください。論文中の図・表については本文中の当該事項を記述している部分に掲載し、巻末にまとめて載せることはしないでください。また、図・表の下に、図表番号及び説明を加えてください。なお、表は、論文に投稿したものをそのまま画像として貼付せず、わかりやすいものに作り直してください。

[注意]

学位申請論文は、投稿論文とは異なり、大学院在籍中に行った実験結果（基礎実験、パイロット実験、スクリーニング実験など直接論旨に関わっていないものも含む）について記述してください。

H）考察

考察では、本研究で得られた新知見および新知見に至った根拠を論じてください。また、問題点などについても論じてください。

I）総括および結論

①本研究全体から得られた新知見を箇条書きにまとめてください。さらに、②新知見の意義、③本研究で得られた新知見から今後どのような研究が展開されうるか、④今後の課題、などを１～２ページ程度で簡潔に述べてください。

J）謝辞

K）引用文献

引用文献は、作成例にしたがい作成してください。

＊作成例＊

【本文中の文献引用】

本文中の引用文献には番号を付さずハーバード形式に準じて本文中に引用元を記載してください。なお、引用文献が未掲載、投稿中、要約、私信などの場合は文献リストには記載せず、本文中のみに記載してください。

また、日本語の文献については、英語の文献と区別することなく、同じように取り扱ってください。

・・・(本文)・・・と報告されている(Masuho et al., 2015a ; Jiao and Jones, 2015)。
種々のワクチンによる脳からのタウまたはＡβペプチドの除去は・・・(本文)・・・

【文献リスト（巻末）】

文献リストでは、著者の氏名順（英語の場合はアルファベット、日本語の場合は五十音順）、発行年順としてください。氏名及び発行年が同一の場合は、発行年の西暦のあとに「XXXXa」、「XXXXb」などとアルファベットを付して区別してください。また、日本語の文献は英語の文献のあとに続けてください。

（英語の文献は著者名のアルファベット順・発行年順に記載する）

Cleary, J.P., Yin, D., Reuss, L., Dutton, G.J., Sondheimer, N.,Lindquist, S., King,S.M., Cowan, W.M., Jessell, T.M., Zipursky, S.L.et al. (2005). Natural oligomers of the amyloid- protein specifically disrupt cognitive function. Nat. Neurosci.8, 79-84. ※１

Dutton, G.J. (1980).Glucuronidation of Drugs and other Compounds. (Boca Raton:CRC Press). ※２

Masuho, I., Ostrovskaya, O., Lramer, G.M., Jones, C.D., Xie, K., and Martemyanov, K.A.(2015a). Distinct profiles of functional discrimination among G proteins determine the actions of G protein-coupled receptors. Sci.Signal.8,118-123. ※３

Masuho, I.,Martemyanov, K.A.,and Lambert, N.A.(2015b). Monitoring G protein activations in cells with BRET. Methods Mol. Biol. 1335, 107-113. ※３

Reuss, L.(2000). Basic mechanisms of ion transport. In The Kidney: Physiology and Pathophysiology, Seldin, D., Giebisch, G., eds.(Beltmore, U.S.A.:Lippincott Williams & Wilkins), pp.85-106. ※４

Kitano, D., Yamada, T. (2006). New treatment for cancers. Japan Research Society [Online]. Available at: https://www.example.com/example.html (Accessed: 11 November 2021). ※５

（日本語の文献は英語の文献の後に、著者名の五十音順・発行年順に記載する）

北野大地、山田太郎、本田一郎. (2005).アルツハイマー病の新しい治療法. 日本薬理学雑誌 125, 178－84

北野大地、山田太郎. (2006). がんの新しい治療法. 日本研究学会. https://www.example.com/example.html. (参照日 2021-11-11). ※５

※１ 引用元が雑誌・定期刊行物などの場合

※２ 引用元が単行本全体の場合の記載方法
（著者名.（発行年）. 本のタイトル.（所在地：出版社）.）

※３ 著者名と発行年が同一の場合の記載方法

※４ 引用元が単行本の場合の記載方法

（著者名.（発行年).章のタイトル. In 本のタイトル、編集者名、ed.(所在地：出版社)、開始頁－終了頁.

※５ 引用元が Web サイトの場合の記載方法

（著者名.（発行年). Web ページ題名. Web サイト名称. 入手先（参照日).）

○ 著者が 10 名以下の場合は著者名を全員記載し（例：Masuho, I., Ostrovskaya, O., Lramer, G.M., Jones, C.D., Xie, K., and Martemyanov, K.A.), 11 名以上の場合は 10 名までを記載して、et al.をつける（例:Cleary, J.P., Yin, D., Reuss, L., Dutton, G.J., Sondheimer, N., Lindquist, S., King, S.M., Cowan, W.M., Jessell, T.M., Zipursky, S.L.et al.）

○ 掲載年は著者名の後に記載する。例：Yin, D., and Tuthill, D.(2000).

○ 雑誌名については単語が省略形の場合はその後にピリオドを打つが、省略形でない場合はピリオドは不要。例：J. Exp. Med.

○ 巻、最初のページ-最後のページの順に表記する。なお、巻の後ろにコンマを置き、号の記載は不要。最初と最後のページ数は省略せずに記す。

例：191, 1423-1428.

ただし、電子ジャーナル等でページ数の表示がない場合には、「最初と最後のページ数」の記入は不要であるが、「,doi～」や「PMID」などの情報を記載すること。

○ 上記の場合を除き、「,doi～」や「PMID」などの情報の記載は不要。

○ Web サイトからの引用の場合は、その URL を記載すること。なお、引用物の著者名、タイトル、掲載年に関する情報があれば、可能な限り学術雑誌の論文引用にしたがって記載することが望ましい。

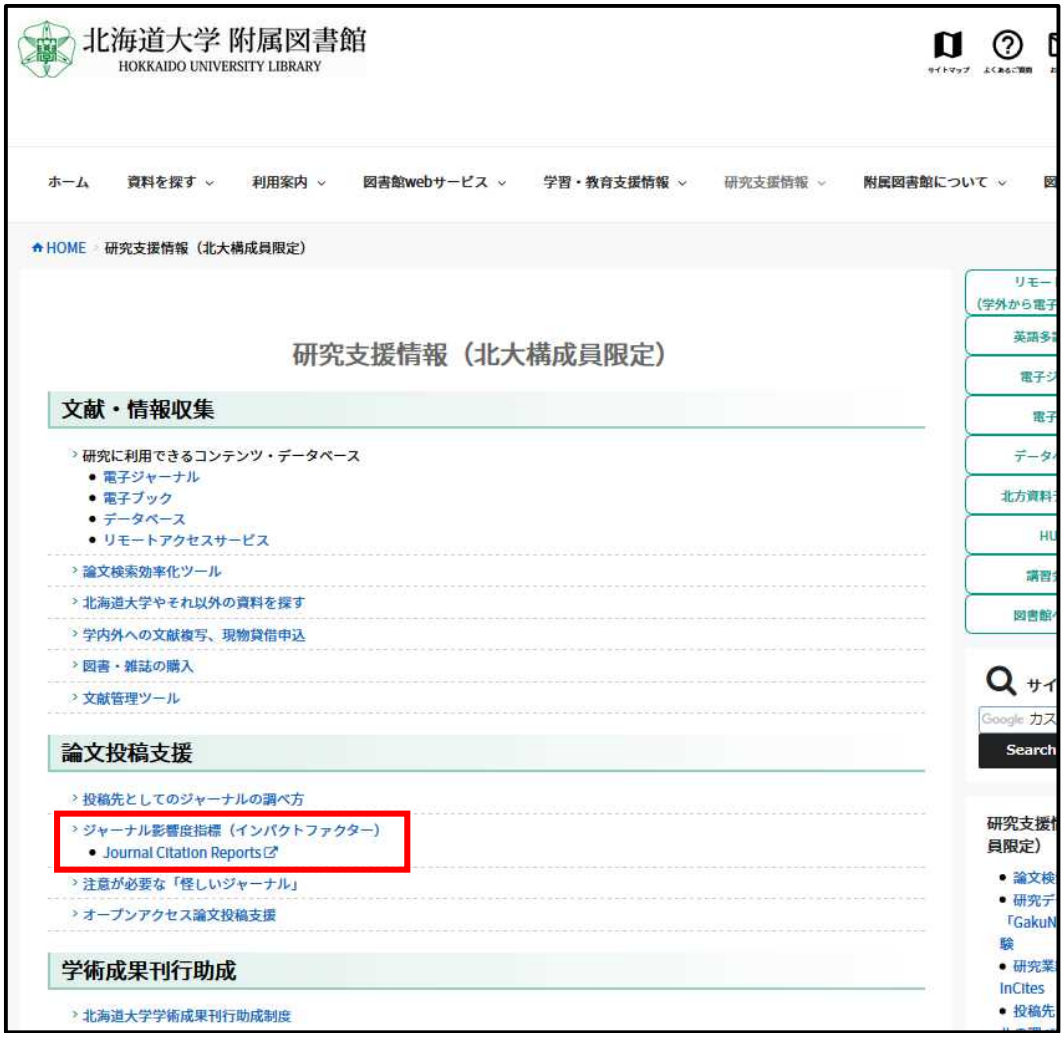
○ 作成例に拠りがたい場合は、文献リストの記載形式は雑誌“Cell”に、雑誌名の記載は Pub Med に準じて記載すること。

英文学術雑誌のインパクトファクターの調べ方

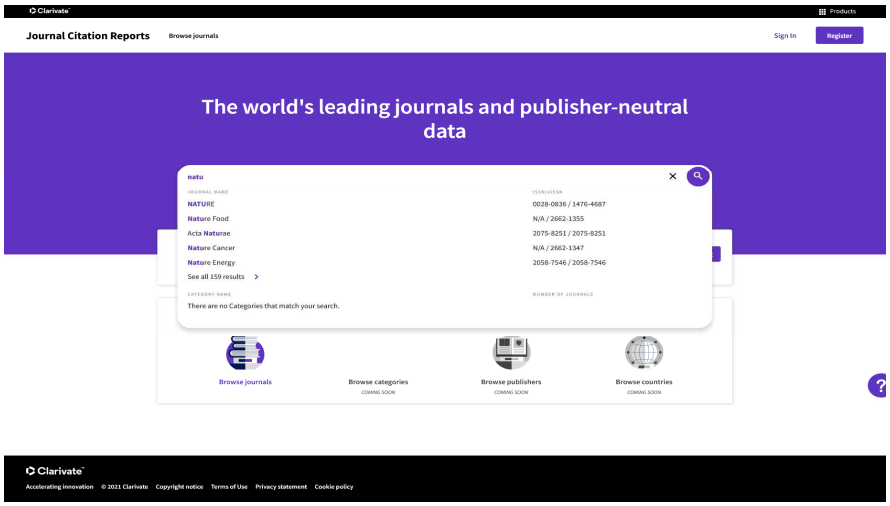
（１）北海道大学附属図書館ウェブサイトにアクセスする
https://www.lib.hokudai.ac.jp/
（以下 Journal Citation Reports のウェブサイトへ直接アクセスすることも可
https://jcr.clarivate.com/JCRandingPageAction.action）

（２）研究支援情報をクリックする

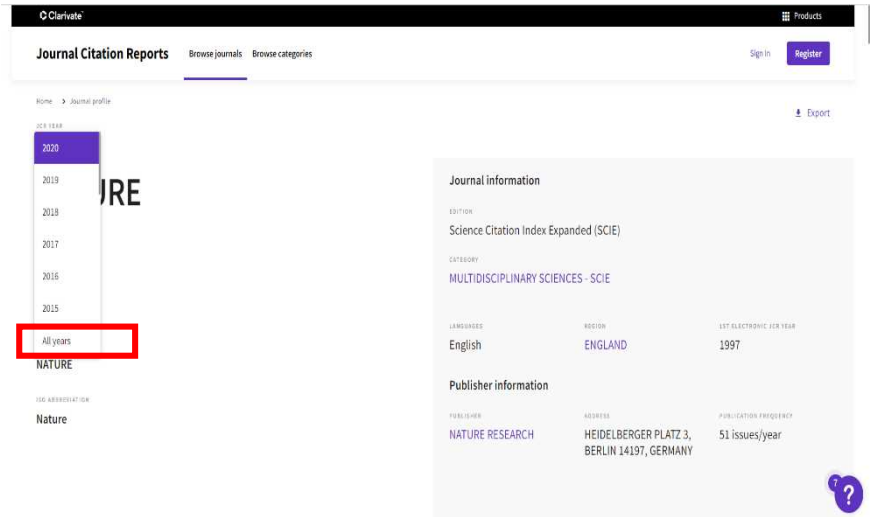
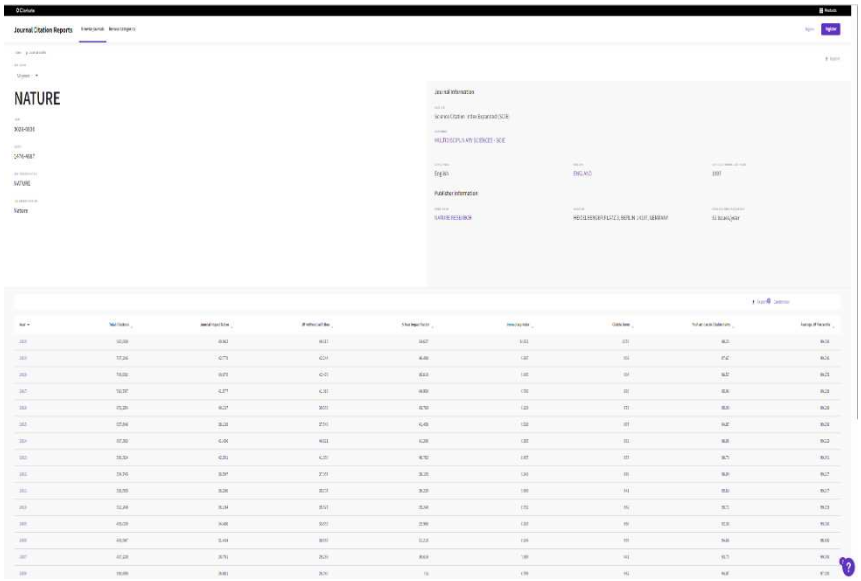
（３）“論文投稿支援”の“Journal Citation Reports”をクリックする
（以降は学内アクセスのみ）



（４）雑誌名でインパクトファクターを検索する



（５）当該雑誌の詳細ページで“JCR YEAR”の“All years”をクリックする



（６）各年度のインパクトファクターが表示されている画面を印刷する